

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 30日
- 事業名 : 社会へ「いっぽ」を踏み出す基盤づくり事業
- 資金分配団体 : 公益財団法人ちばの WA 地域づくり基金
- 実行団体 : 一般社団法人いっぽの会

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
1-1,シェアハウスで暮らす若者が規則正しい生活を送れるようになる。	決まったプログラムに沿った生活が送れている人数	シェアハウスで暮らす若者の全員 (9 人) が規則正しい生活が送れている。	2024/1	0 名	3
1-2,若者が自己課題を認識し、自身に向き合えるようになる。	自己課題への認識度	生活支援プログラムを受けた若者のうち 8 割が初期値に比べて認識度が向上している。	2024/1	0 名 (%)	3
2-1,若者が就労支援を受けることで自身の適性を把握できるようになる。	自分自身の適性の理解度	就労支援プログラムを受けた若者のうち 5 割が初期値に比べて適正の理解度が向上している。	2024/1	初期値から変化なし。 就労支援プログラムの対象となる入居者がいないため実施できていない。	3
3-1,パンフレットや HP によって、社会的養護を経験した若者	①パンフレットを配布した施設数、企業数	①3年間で 60 件	2024/1	① パンフレットは 300 部刷ったうちの	2

<p>の現状が周知される。</p>	<p>② HP の閲覧数</p>	<p>② 月に 30view</p>		<p>200 部以上を配布した。</p> <p>② 月 37.5view ホームページは、令和 4 年 5 月から 8 月までの間に、150 件以上の view を稼いでいる。今後は、さらに対象者の若者、関係機関の方へ閲覧、フォローしていただいているよう、更新内容等をイベント情報等も含め工夫していきたい。</p>	
<p>3-2, イベントが定期的開催される。</p>	<p>① イベントの開催回数</p> <p>② 参加者数</p>	<p>① 年 4 回開催、事業終了までに 8 回</p> <p>② 1 回参加者 10 名程度、延べ 80 名</p>	<p>2024/1/1</p>	<p>① 1 回 シェアハウス開所に伴い 2022 年 7 月 16 日にオープニングイベント「内覧会」を行った</p> <p>② 17 名の参加者。 シェアハウスの紹介、今後の活用について、ご意見をいただき、話し合いを実施した。</p>	<p>3</p>

				第一入居者の歓迎会を地域の方の協力のもと準備中である。	
3-3,勉強会が定期的開催される。	① 勉強会の開催数  ② 参加者数	① 年 4 回開催、事業終了までに 7 回  ②1 回参加者 15 名程度(職員含む)、3 年間で延べ 105 名	2024/1/1	① 0 回 地域に向けた勉強会とは別に、毎月第一水曜日に定期的実施し、計 13 回の勉強会を開催した。  ② 延べ 40 人 地域に向けた勉強会の参加者とは別に、内部職員(7 名)と外部の関係機関の方(延べ 40 人、実人数 15 名)を招き実施してきた。 今後は、地域の方対象の勉強会を開催する。	2
3-4,ボランティアが若者とコミュニケーションが取れる。	①生活支援プログラムに組み込まれている協働作業をボランティアと若者が実施した数	①1 ヶ月で 8 回の協働作業を実施している。	2024/1/1	① 0 回	3

	②ボランティアの人数	②20名		<p>②現在、2名の地域のボランティアの方が定期的に主に畑仕事で手伝っていただいている。</p> <p>また、ボランティアを希望をしている方が5名ほどいるので調整を図っていく。今後は、ボランティアセンターに登録、ボランティアへの研修、体制づくりなどを行っていく想定である。</p>
--	------------	------	--	--

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
一般的なアルコール消毒、検温、マスクの着用などの感染防止対策の遵守、zoom による会議の開催などを実施した。

## ③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）  
柏市民新聞（柏ロータリークラブ寄附）
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内 部	短期アウトカムの進捗状況（報告書作成）	久保田 尚 美	一般社団法人いっぽの会代表理事
内 部	短期アウトカムの進捗状況(報告書作成) 事業のアウトカムの進捗評価(報告書作成)	朝 日 仁 隆	一般社団法人いっぽの会指導員
内 部	事業の改善状況の評価（作成支援）	左 合 美恵子	一般社団法人いっぽの会指導員
内 部	事業の改善状況の評価（報告書作成）	田 村 敬 志	一般社団法人いっぽの会指導員
外 部	短期アウトカムの進捗状況(報告書作成)	古 澤 肇	社会福祉士
外 部	全体（インタビューへの協力）	山 田 久美子	自立援助ホーム南柏施設長
外 部	全体（インタビューへの協力）	中 安 恆 太	学校法人和泉短期大学児童福祉学科准教授

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1.社会的養護を経験した若者が心身共に健康になっている。	自活を始めた人数	①シェアハウス利用者のうち 6 人が自活を始める	2024 年 1 月	①、②ともに、現在は 0 人。 シェアハウスの生活をする若者がまだいないため利用者の変化はない。

主体は若者		② 通所者のうち5割が自活を始める		
2. 社会的養護を経験した若者が就労に対して意欲が向上している。	就業期間	就労プログラムを受けた5割の若者の就業期間が増加する	2024年1月	相談ケースへの中には、就労支援プログラムの対象となる若者がいないため、まだ実施していない。
3. 地域の人々が社会的養護を経験した若者の現状(人の関りや就労について困難を抱えているということ)についての理解が深まっている	① 勉強会やイベントに参加した人のうち継続的に関わってくれる人の数	① 勉強会やイベントに参加した人の6割が継続して関わってくれる	2024年1月	・畑作業の支援者1名、見学者30名 当初は、知人も協力者もない状況であったが、ご紹介の地域の方との協働での畑作業や商店の利用等を行うことにより、かかわりが増え、事業の周知も少しずつできている。 また、NPOや福祉関係者も含め、見学者が約30名となっている。
	② 地域の人々の若者の現状の理解度	② 勉強会やイベントに参加した人の8割が理解が深まると答える	2024年1月	・1回実施、17名参加 当初の2022年5月からすると、地域の中での理解者、協力者が少しずつ増えている。 ・社会課題として、必要な事業や取り組みであること、支援を必要とする若者の理解と共感を少しずつ得てきている。 ・今後、この事業に「協力したい」「連携していきたい」との申し出も数か所あり、継続した周知活動、交流会や説明会、勉強会を実施していく。



③ アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
	なし	なし



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、シェアハウスの利用者は0名であり、対象となる若者に関する短期アウトカムの進捗評価ができていないが、9月に入居予定の若者が1名いるので、今後は、評価できる状態になる。</li> <li>・また、現在、支援中の若者もいるので、シェアハウスの開設に伴い、さらなる利用が進み、評価も進むものと考えている。</li> <li>・関係者との話の中では、相談支援や通所、訪問でのニーズもあることがわかった。今後、シェアハウスに入居しなくても支援を必要としている若者にも対応していくこととし、そのための職員の相談支援に関する資質の向上が必要である。</li> </ul>



## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	① 活動を実施する上で支障となる問題は起きていないか。その原因は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を実施するうえで支障となった問題は、若者の受け皿を準備できなかったこと。その原因は、シェアハウスの確保に時間がかかりすぎたこと。</li> <li>・ 受け皿がないので、事業の PR も積極的にはできなかったこと。</li> <li>・ その結果、若者の受け入れが無かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初、「シェアハウス」という大きなくくりで、不動産業者に物件の斡旋を依頼していたが、そもそもシェアハウスの物件が少なかったこと、管理の面から対象地域を法人の施設からアクセスしやすい場所に絞ったことなどにより、不動産業者からの紹介も少なく、なかなか納得できる物件が得られなかった。</li> <li>・ 次いで、シェアハウスの条件として、居室が3室以上、宿直室、ダイニング、交流スペース等を備えていて、家賃が月15万円程度、場所は柏市南部地域とするなど、より具体的な条件を提示し不動産業者に斡旋を依頼した結果、約50件の物件を検討することになり、決定まで約1年を要してしまった。加えて、リフォーム改修工事も必要となり、さらに時間を要してしまった。</li> <li>・ 関係者インタビューでは、既存の物件では、条件に合うものが少ないので、可能であれば新設が望ましいこと。また、こちらの希望を100%満たす物件はありえないので、物件の条件に優先順位をつけるなどして、早期に妥協できる条件を明確にし、期限を設けて対応すべきではなかったかとのご意見をいただいた。</li> <li>・ 物件の確保が遅れた結果、PR活動等を含めた事業の実施に大きな支障をきたしてしまった。</li> <li>・ この間、問い合わせや相談は、約10件、発生したが、施設利用にまでは話しが進まず、実際の利用者がなく、事業は停滞した。</li> <li>・ 2022年8月にシェアハウスが確保できたので、今後は、関係機関への周知やホームページでのPR活動を積極的に行うことにより、若者への事業の周知を図り、実際の利用に結び付けていく。</li> </ul>

<p>知見の共有、 活動の改善</p>	<p>② 関係者・関係機関との連携は事業の改善に生かされていたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生かされている</li> <li>・ 障害者福祉・精神医療、相談支援に関する知識の充実、専門性の強化に努める必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修参加や定期的な勉強会を通じて、他機関の職員と繋がることができ、他の機関の機能や役割を理解することができてきた。特に「就労支援」「シェアハウス」をキーワードに、法人が若者支援事業に活用できる社会資源に関する情報が増え、若者支援の選択肢が増えてきた。</li> <li>・ 今後、それらの資源を「資源マップ」のような形でまとめ、専門性を持った関係機関の連携により、より効果的な支援方法の選択や、若者の就労の選択肢の拡大に活用していきたい。</li> <li>・ 関係者インタビューでは、今は、いろいろな制度や組織が整ってきているし、地域の中にも様々な人材がいるので、それらの資源を有効に活用するため「見える化」し、関係者間で共有することが大切とのご意見をいただいた。</li> <li>・ 「就労支援」のシェアハウスと銘打っていても、周囲からは、一時的な「居場所」「シェルター」としての利用の期待が高く、利用目的・条件は、もっと幅広くすべきかもしれない。</li> <li>・ 現に、住居に困っている方を目の前にし、見捨てるわけにはいかず、「支援の体系」を障害、医療といった視点からも検討する必要があるかもしれない。スタッフの教育、体制づくりが急務である。</li> <li>・ 関係者インタビューでは、緊急性の高い方に「就労支援」と銘打っても、そこまでの考えには及んでいないと思われるので、シェルター的に受け入れたあとのステップを、他機関と連携する中で「柏モデル」を構築できたら、とのご意見を頂いた。</li> <li>・ 相談者からの多様なニーズに対応するためには、幅広い分野での知識や経験が必要であり、勉強会、OJT等に反映させる必要がある。</li> <li>・ ただし、守備範囲をあまり広げすぎると、簡単には対応できないことが増えてくると思われるので、相談者の多様性を尊重しつつ、最終的な目的としては、引き続き就労を通じた自立を目指すこととする。必要な機関へ繋いでい</li> </ul>
-------------------------	---------------------------------------	---	--

			<p>く見極め、サポートも大事であり、相談援助技術、ソーシャルワーク機能を充実させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者インタビューでは、活動する中で必要な資源獲得（ソーシャルアクション）も必要になると思う。その際、「なければ作れば良い」という発想も重要であるとのこと意見を頂いた。また、多くの施設や関係機関で、経験不足や知識不足等人材不足が指摘されているので、関係機関との連携は重要。本来は、行政主導による抜本的な対策が必要だと思うが、自助努力として、引き続き、勉強会や研修を充実させてほしいとのこと意見をいただいた。</li> <li>・ また、シェアハウスの目的、受け入れ対象については、もう少し規模が大きくなれば、多様な受け入れも可能だと思うが、中途半端に間口を広げ、シェアハウスの目的が曖昧になると、結果的に、若者の効果的な支援につながらなくなる恐れがあるとのこと意見をいただいた。</li> </ul>
組織基盤の強化	<p>③ 活動の持続可能性を高めるために関係者（団体職員やボランティア）ごとの特性（強みや弱み）を理解しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の広がりに合わせて、地域の方に社会に踏み出せない若者の現状についての理解が深まりつつある</li> <li>・ 財政基盤の強化は必須であるが見通しは立っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政や地元町会関係者への説明などにより、少しずつ事業を理解してくれる環境が整ってきている。</li> <li>・ 引き続き、特に生活支援の面でのボランティアの登録と活用。地元の人材（食生活の世話・アドバイス、畑作業のサポート、夜間勤務要員など）を確保して、地域に根ざした持続的、安定的な運営が図られるよう努める必要がある。各団体、個人の特性、強みや弱みを理解していくにあたり、ボランティアコーディネーターの機能の学びも必要であると認識している。担当職員の配置を検討している。</li> <li>・ 収益事業の検討、行政支援の働きかけ、民間企業による支援・寄附など、持続可能な事業スキームを確立する必要がある。パンフレットの作成、寄付のお願いについては、継続的に実施していく必要がある。</li> <li>・ 関係者インタビューでは、実際の現場で分からないこと、困ったことが生じ</li> </ul>

	<p>④ 若手職員に変化は生まれているか。また、今後の事業実施において若手職員の育成で、重視すべきことは何か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手職員の変化は先輩職員の指導や勉強会・研修の充実、実務経験を積み重ねることで少しずつ進んでいく</li> </ul>	<p>たときに、自分で調べて解決策を見出していかなければ、成長できないのではとのご意見をいただいた。また、費用は掛かるかもしれないが、それぞれの課題に対応した民間の専門研修もあると思うので、まずは、正しい知識を身に付けることが肝要ではとのご意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手職員については、勉強会など机上の学習ももちろん大切だが、現場活動を通して関係者・関係機関と具体的な調整作業を経験することにより、自身の役割や行うべきことなどが自然と理解できるようになるとも考える。若手職員育成は、基本的な面談技術、コミュニケーションスキル、プランニング(見立て)、モニタリング、会議の進め方(ファシリテーション)、機関連携など、ソーシャルワーク機能を軸にしていく。</li> </ul>
--	---	---	---

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・市や児童相談所等、関係機関にパンフレットの配布を行ったことや、ホームページを開設したことなどにより、徐々に問い合わせが増えてきており、9月末での1名の入所に結びついた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・事業の目的である「就労支援を通じて社会へ踏み出す」こととは多少異なるかも知れないが、シェアハウスについては、生活の場を確保しながら、生活の立て直しや社会性を身に付けるための訓練の場としての需要はかなり高そうであることがわかったこと。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な対象者が生じたばかりではあるが、施設の確保が遅れた一方、関係機関との話し合いや相談への対応、勉強会などの時間が増えたことにより、生活支援や就労支援について、若者が抱える一般的な課題や問題点の把握、対応の仕方などを学べているので、相談支援を実施する職員としての基礎や受け入れ体制はできつつあると考えている。</li> <li>・シェアハウスの確保により、関係機関への積極的な働きかけや、ホームページ等による PR 活動もがより具体的に進めることが可能となったので、利用者の増加や、短期アウトカムにつながるアウトプットも増加してくるものと考えている。</li> </ul>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・相談支援機能の強化（研修や勉強会の充実、マニュアルの整備等による、個別対応における判断力、応用力の強化）
- ・生活面で若者を支援できるボランティアの確保、交流スペースの活用
- ・収益事業の確保、公的支援の確保

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）